

こどもの服と靴

着ている衣服によってこどもが事故に遭ったり、危ない目にあったりした経験はありませんか。こどもの衣服に関係して思いがけない事故が起きています。こどもが着る服を選ぶ時はデザインや価格だけではなく、安全面も考えて選びましょう。

こども服の要注意ポイント

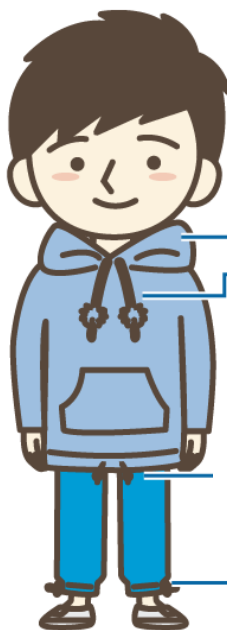


例えば、こんな部分が家具やドア、遊具などに引っかかると、転倒や首絞めなどの事故につながることがあります。



フード

ドアノブや遊具に引っかかるなどして、けがをする危険があります。



フード

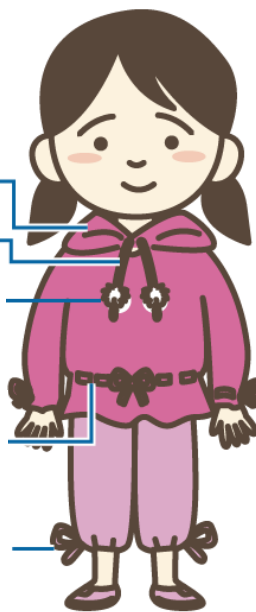
首周りのひも

ひもについている

ポンポンや飾りボタン

ウエストや腰回りのひも

ズボンのすそのひも



ひも

自分で踏んで転んでしまったり、遊具に引っかかり、自転車や三輪車に巻き込まれたりする危険があります。



服の飾り

スパンコールやラインストーンなどの飾りのついた服は飾りが取れてけがや誤飲の危険があります。

ファスナー

閉じるときに皮ふをはさんだり、着替えのときに顔を傷つけたりすることがあります。金属製ではなく、プラスチック製のものを選びましょう。



靴選びのポイント…こんな靴がおすすめです

こどもたちがしっかり歩いたり、走ったりするためには、足に合った靴を正しく履くことが大切です。幼児期は足が形成される大切な時期です。履き始めは片側ベルトの靴にします。脱ぎ履きになれてきたら、折り返しベルトの靴に移行すると良いでしょう。

靴が小さいと足を痛め、大きいとすぐに脱げて転倒する危険があります。



上靴も確認しましょう



中敷き

中敷きが取り外し可能なものを選びます。取り外せるとこまめに洗えて衛生的です。中敷きに足を合わせて、サイズを確認します。中敷きとつま先の余裕が約1cmあれば適正で0.5cm以下になったら靴を取りかえましょう。

かかと

かかとを包み込むところがかたく、しっかりしているものを選びましょう。



片側ベルトのくつ



折り返しベルトのくつ

ベルト

ベルトはこどもが握りやすく、引きやすい幅のものを選びましょう。裏側の面ファスナーは広範囲についていると調節がしやすいです。

つま先

つま先に指を動かすゆとりがあるものを選びましょう。指が自由に動かせるようにつま先が広がって厚みがあることも大事です。

靴底

0～1歳

靴底がまっすぐ平らで、置いた時にぐらぐらしない、安定感のあるものを選びましょう。

2歳児以降

足や足首が十分に動かせるように、つま先から1/3が楽に曲がり、靴底に適度なクッション性があるものにしましょう。

靴は足を保護するとともに、足の機能をサポートするための道具です。見た目の良さのみで選ぶのではなく、運動しやすく、成長を妨げない靴を選び、また、定期的にこどもの足のサイズに靴があっているか確認しましょう。